

「バブル景気」と聞くと、いろいろなことを思い出される方もいらっしゃると思います。昭和61（1986）年11月から51カ月に渡る景気拡張期のことで、この間、わが国の経済規模は25%程度増加したとされています。

その後、携帯電話やパソコンの需要が拡大した「IT景気」、戦後最長となった「いざなぎ景気」などの景気拡張期、「バブル崩壊」や「リーマン・ショック」をきっかけとした「世界同時不況」などの景気後退期の名称（通称）がマスコミなどで用いられています。

この景気の名称は、一般的に用いられているものであり、公的に定まったものではありません。

「景気」とは、日本全体の経済活動の状況を表すものです。モノやサービスが売れて企業の業績が向上して消費が拡大するなど、経済が活発に動いている状態を「景気が良い（好況）」と言い、反対に経済活動の活発さが失われた状態を「景気が悪い（不況）」と言います。

景気は、好況→後退→不況→回復を繰り返します。これを景気循環と言います。景気が好況から後退に変化する転換点を「景気の山」、景気が不況から回復に変化する転換点を「景気の谷」と言います。

県では、県内景気の現状把握などに用いられる「景気動向指数」を毎月公表し、その算出のもととなる指標から景気の転換点である「景気の山・谷」を設定しています。県と国の「景気の山・谷」の時期はおおむね一致しています。

県内景気の動向などを確認するときは、「景気動向指数」も参考にさせていただけたらと思います。

山口県景気動向指数

